

青少年の地域活動及び交流の推進事業の今後の在り方について

1 目標

様々な経験や年齢、世代が異なる人たちとの交流の機会を提供することにより、青少年（中高生）の自己成長を促進する。

2 現在の取組み

令和4年度の学びのキャンパス推進事業における行動計画策定時に、青少年に係る現状分析を行ったところ、ネット環境の進展や社会の変化により、青少年が学校では学ぶことができない自然体験や社会体験を日常的に積み重ねて成長する機会が減少していることにより、意図的に目標を持って体験活動等にチャレンジする機会が必要であること等が浮き彫りになった。

これを踏まえ、高校生が地域活動を通じて様々な経験をしたり、年齢や世代が異なる人たちと交流することにより、自己成長の促進や生きる力を養うことを目的として、今年度から地域活動に興味を持ってもらうための講座と、様々な体験が可能な「体験の場」を提供している。

(1) 体験の場 ～福祉体験編～

オリエンテーション：7月8日（土）

実施日：1回目…7月27日（木）、2回目…8月17日（木）

実施場所：上戸野地域センター



(2) 体験の場 ～自然体験編～

オリエンテーション：7月8日（土）

実施日：1回目…9月23日（土）、2回目…10月14日（土）

3回目…11月12日（日）※予定

実施場所：1回目…憩いの森公園、2回目…憩いの森公園

3回目…コミュニティカフェ funfan ※予定

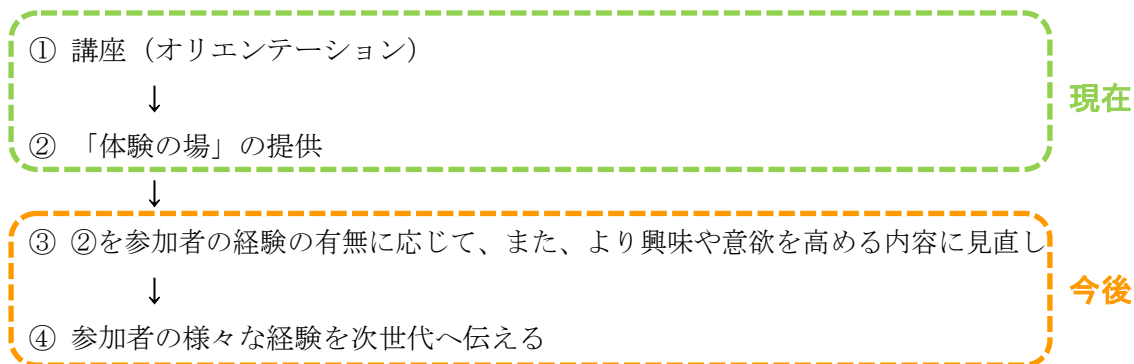


3 成果と課題

成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> ○参加者が、当事業での体験を通じて、地域活動やボランティアなどへの参加意欲が高まった。 ○参加者が、地域活動やボランティアなどが自分の成長にとってメリットになると認識できた。 ○参加者の積極性、主体性が育まれた。 ○活動先の地域から感謝されることで、参加者の自信に繋がった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○参加者が少ない。 参加者数 13人 (賀茂高校 賀茂北高校 黒瀬高校 西条農業高校 県立広島高校 近大附属広島高校) ○「体験の場」参加者が体験を活かせる次のステップに市が誘導しきれていない。 ○青少年が興味を持ち、意欲を活かす場が十分に提供できていない。

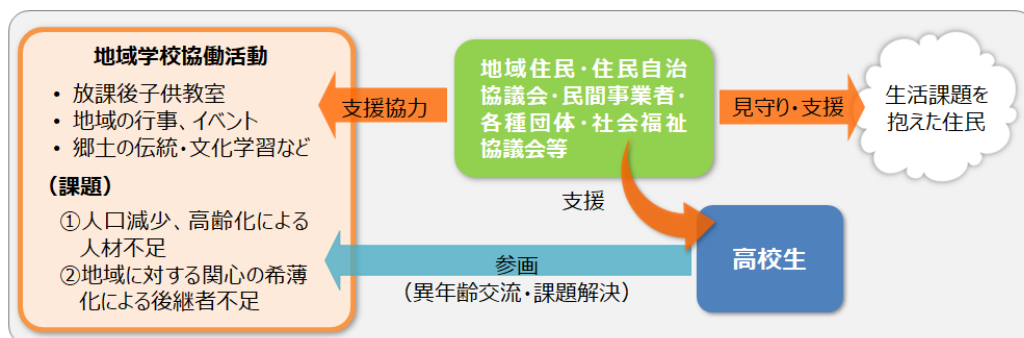
4 今後のステップ

「体験の場」にて様々な経験を重ねた者の可能性を次世代と共有するため、異年齢交流などを通して経験を伝えることができる環境づくりを目指す。



5 方向性

現代社会を生きる力を涵養するため、これに必要な自己成長の促進を図る取組内容について、より青少年が興味を持ち、意欲を活かすものとなりよう、地域学校協働活動や他事業とも連携し、ブラッシュアップを図っていく。



(出典)「学びのキャンパス推進事業における行動計画 (令和5年3月)」より抜粋

来年度も引き続き実施するに当たり、参加してみたいと思うテーマや内容や参加者を増やす方策、方向性に沿ってより青少年にとって有意義な取組みとなるよう、関係機関と協議しながら検討していきたい。